

学校教育目標：思いやりの心を持ち、自ら学び、たくましく生きる生徒の育成

〈本校の現状と課題〉

- ①全学年において、シャトルランの値が低く、特に、第一学年全体が低い。
➡コロナ禍における、外遊びの減少などが原因か？
- ②ハンドボール投げの数値が低く、特に第一学年の男子の値が低くなっている。
➡運動部活動に入部する生徒が減っている関係か？

〈取り組み〉

生徒自身の課題把握

- ・授業のなかで、日常生活を振り返る時間をつくり、自分自身の生活を見つめ、生活習慣をよりよいものにしていくようにする。
- ・生徒自身が、自分の体力の課題を理解し、運動の日常化の意識づけをする。

保健体育の授業での取り組み

- ・マット運動において、活動をはじめる前に、体づくりや感覚づくりの一環として「ブリッジ」や「補助倒立・壁倒立」「背支持倒立」などを毎時間取り入れる。
- ・長期休業期間に、体力向上を目的として、自分自身で向上させたい体力を決めてトレーニングを行う課題を出す。ワークシートを準備し、毎日のトレーニングを記録するようしておく。

運動部活動や家庭との連携

- ・新体力テストの結果と課題を各部顧問に伝え、日々の練習のなかで、筋力や体力が向上するようなメニューを取り入れてもらう。
- ・新体力テストや身体計測の結果を保護者に知ってもらい、家庭での協力を得る。

〈目標〉

- ・すべての学年において、総合評価を県平均以上にする。
- ・体育の授業が好きと答える生徒の割合を増加させる。
- ・運動を日常化できるよう、授業のなかで運動の重要性を伝え続けていく。
- ・運動の楽しさを知ってもらえるように、授業のなかで「できた」「わかった」を増やしていけるようにする。